

長期的過程としての「家族」再結合  
— フィリピンの移住者出身村における定点調査から —  
Long-term Processes of “Family” Reunification  
A Case from a Migrant Sending Village in the Philippines

長坂 格 (広島大学)  
NAGASAKA, Itaru (Hiroshima University)

キーワード： 家族再結合、フィリピン、イタリア、アメリカ、家族圏

## 1 はじめに

フィリピンは、世界各地に多数の移住者を送り出していることで知られる。年ごとの統計で見れば、国外へと就労と生活の拠点を移す国際移住者の大半は、移住先において数年間の契約で就労する「海外契約労働者」(Overseas Contract Workers)である。しかしその一方で、1960年代からのアメリカ合衆国への移住者を中心に、国外で市民権や永住権を取得したり、また更新が可能な居住許可を取得して、移住先国に「定住」するフィリピン出身者の数も増加している。

報告者が1990年代初頭から調査を実施してきたフィリピンの一村落においても、中東諸国、香港や台湾などの東アジア諸国への2~3年程度の契約労働を繰り返す人々がいる一方で、アメリカ、イタリアを中心に、移住先で市民権、永住権、居住許可を取得して移住先に長期間居住する人々がいる。後者の人々は、移住先国の移民政策で認められている家族再結合制度を利用して、親や子供などを移住先に呼び寄せてきた。

本報告では、こうした「家族」再結合の過程が長期間にわたっている事例を紹介し、併せてその事例を、出身地社会の家族・親族関係の特徴や、移住先国の移民政策および社会経済環境との関連で考察する。そうすることで、移民政策の中での「家族」再結合は、移民政策自体の特徴と、移住者の出身地社会における家族関係の様式や地域社会の歴史、移住先での社会経済環境などの諸条件との複雑な絡み合いの中で実現されること、したがってひとつの移民政策のもとでも、実際の「家族」再結合の過程は多様な形をとりうることを示唆したい。なお、本報告で用いる資料は、1993年から2008年まで、フィリピン、ルソン島北西部の一村落で断続的に実施された現地調査、1998年と2001年に、イタリア、ローマで実施された現地調査で得られたものである。

## 2 「家族」再結合現象への視点

「家族」再結合の実際の過程を検討するにあたって、本報告では、移住者たちの出身地社会における生活経験を重視するという方針を採用したい。この方針は、フォーナーが、主として人類学者による移住者の家族についての研究をレビューした論文において提唱し

た、移住者の家族を構造、文化、エージェンシーが交差する場として捉えるという立場に重なる (Foner 1997)。すなわち、移住先の移民政策や社会経済状況 (構造) に加え、出身地社会における家族関係の特徴 (文化) を重要な背景として、それらの背景の中で当事者たちがどのように家族関係を調整しつつ対応しているのか (エージェンシー)、そしてその過程で家族関係がどのように変化していくのかに焦点を当てる立場である。この報告では、そうした立場から、一方で出身地社会において概念化される (／され続ける) 「家族」や地域社会の「歴史」を、他方で特定の移住先国における政策や経済状況によってある程度規定される移住者たちの移住経験を踏まえて、フィリピンの一村落からの「家族」再結合の事例を検討する。

### 3 事例

調査対象となった村落では、この地方の他の村落と同様に、1965年のアメリカの移民法改正以降、多数の村人が家族再結合制度を利用してアメリカへと移住した。このような大量の村人のアメリカへの移住の背景には、アメリカ植民地期の1910年代～1930年代初頭にかけて、この地域から多数の若者がハワイやカリフォルニアに働きに出ていることがある。また、1980年代以降、多数の村人が、入国管理がさほど厳格ではなかったイタリアに入国して、主として家事労働者として就労するようになった。イタリアで働く村人は、ほとんどが合法化措置によって居住許可を取得した。そして居住許可を取得した村人の中には、とくに1990年代以降、1986年に導入された家族再結合制度を利用して、配偶者や子供をイタリアに呼び寄せる人々が出てきた (長坂 2009)。

このような調査村の移住史を踏まえ、報告では、アメリカとイタリアへの移住における「家族」再結合の事例を紹介する。アメリカへの移住については、結婚や養取を通して移住が家族ネットワークにつながる人々の間で拡大していく事例を、イタリアへの移住については、子供を故郷に残して／戻してから初等教育終了前後に呼び寄せる事例をそれぞれ取り上げる。そして、出身地の地域社会の歴史的文化的文脈と移住先社会の政策的経済的社会的文脈とを踏まえ、微妙に異なった形で長期化するそれぞれの「家族」再結合の過程に若干の考察を加えたい。

#### 参考文献

Foner, Nancy 1997 "The Immigrant Family: Cultural Legacies and Cultural Changes."

*International Migration Review* 31(4):961-974.

長坂格 2009 『国境を越えるフィリピン村人の民族：トランスナショナリズムの人類学』  
明石書店